

第4号

○平成29年度
・第4回理事研修会



発行
北海道小学校長会
札幌市中央区北5条西6丁目
第2北海道通信ビル306号室
TEL 011-218-9850
FAX 011-218-9851
e-mail: mail-h.s.k@dousho.jp
http://www.dousho.jp/

平成29年度 第4回理事研修会

☆平成29年12月18日(月)10時30分より
☆ホテルライフオート札幌

【報告事項】

- 全連小第227回理事会の報告
- 教育情勢について
- 会務・各部の活動について
- 第60回道小宗谷・稚内大会について
- 第69回全連小佐賀大会について
- 第70回全連小北海道大会(函館市)の参加割当等について
- 道教委・教育局への要望内容の集約について

- 北海道へき地・複式教育研究連盟(へき複連)の活動や要望について
- 北海道特別支援学級設置学校長協会(道特協)の活動や要望について
- 平成29年度運営委員研修会(中間監査報告)について
- 企画研修委員会について

【学習会】

- 「学校における働き方改革『北海道アクション・プラン』(骨子案)について」
北海道教育庁教職員課主査
藤井 忍様
- 「学習指導要領の改定について」
北海道教育庁義務教育課主幹
川端 香代子様

【協議事項】

- 道小大会運営研修会(反省会・引継会)を受けて
- 第70回全連小北海道大会(函館市)の進捗状況について
- 平成30年度活動計画・総会宣言文の作成について
- 平成30年度役員選考について

【連絡】

- 第5回正副会長研修会・理事研修会について
- 平成30年度会務予定について(道小・全連小)
- 退職会員の感謝状及び記念品について

平成29年12月18日(月)、ホテルライフオート札幌において第4回理事研修会が開催された。また、同日13時50分からは第2回専門部研修会、14時30分からは第1回企画研修委員会も開催された。

1 開会の言葉…………… 相座 豊 副会長

2 会長挨拶(要旨)…………… 角野 会長

本日は、皆様にご案内申し上げたとおり、理事研修会終了後、「道小結成60周年記念式典」及び「祝賀会」が予定されている。また、企画研修委員会の委員の皆様には、短時間ではあるが第1回の委員会も予定されている。大変、内容の濃い一日となるが、よろしくお願ひしたい。

最初に、本日の理事研修会から、来年度の研究大会に向けて、新たに出席していただくこととなった研究指名理事の方をご紹介します。函館市小学校長会の秋山隆行校長先生である。よろしくお願ひしたい。

それでは、教育情勢について、4点程お話しする。

1点目は、11月21日に開かれた全連小常任理事会の報告である。

最初は、要請活動についてである。会務報告にあるとおり、11月13日に教育関係23団体による全国集会が行われた。今後の予定に記載されている12月15日の文科省に対する平成30年度予算要望活動は、既に実施された。いずれも、教職員定数改善の問題が大きな柱となっている。

続いて、「デジタル教科書の位置付け」についてである。中教審初中分科会資料によると、デジタル教科書の位置付けについては、紙の教科書を主たる教材として使用することを基本としつつ、学びの充実が期待される教科の一部につ

いて、教科書に代えて使用するという考え方が示された。以前、教科書が全てデジタル化されるという一部報道もあったが、それは払拭された。

続いて、「小学校教育の充実・改善に関する要望書」についてである。記書きの最初の項目には、教員の長時間勤務改善や教員の定数改善など人的措置について記述してある。この項目では、「子どもと向き合う時間を確保するための」という枕詞がポイントとなる。単なる待遇改善活動と誤解されないことが大切である。この要望書は、12月15日(金)午後、全連小役員とともに、私もブロック代表の常任理事として、衆議院議員会館及び参議院議員会館に届けてきた。

続いて、財政制度等審議会財政制度分科会で示された、教職員定数についての財務省の考え方である。その一つは、現在の法制度に加えて教職員の増加が必要か否かは、エビデンスやP・D・C・Aサイクルの確立が前提だと述べている。その二つは、教員の働き方改革についてである。教育委員会等の調査物の厳選、部活動の在り方見直しなど、業務の適正化を行っていくべきだと主張している。その三つは、新学習指導要領の時数増加への対応についてである。既に標準時間を上回る授業を実施していることから、それを英語に振り替えて対応すべきだと述べている。

これに対して全連小は、財務省の新学習指導要領の時数増加への対応については、現状をよく理解していない机上の空論であると強く反論している。

全連小では、事前に財政審に意見書を提出していたが、

「人的配置の重要性について」の項目において、教育現場の現状が的確に述べられている。「現在の日本の教育を維持できているのは、教員等による、授業時間のみならず、授業に臨む教材研究及び教材準備、授業時にはカウントされていない指導の時間、そして何よりも各学校等による研究会・研修会の成果だと考えている」というくだりである。

続いて、全国大会開催に関わる全連小の運営規則等についてである。次年度、函館で全国大会があるので、資料を提供させていただいた。道小からは、全連小の常任理事会において、各ブロックに対して大会宣言文審議委員の報告を求めたところである。

また、各都道府県の参加割り当てを提案している。平成30年1月に研究大会の事前打ち合わせ会があることも、ご承知おきいただきたい。

2点目は、今年度の全国学力・学習状況調査の北海道版結果報告書の公表についてである。12月4日に道教委義務教育課から説明を受けた内容をご報告する。

公表における柴田教育長のコメントであるが、本道の状況は、全国の平均正答率との差が縮まるなど改善が見られるとしながら、大きく次の3点が課題だとしている。「記述式問題で全国より無回答率が高いこと」「授業の振り返りが子どもたちに十分意識されていないこと」「望ましい生活習慣が十分身に付いていないこと」などである。

管内の状況については、ばらつきがあるものの全道の平均と下位の管内の差は縮まっているとコメントされている。

最後に、「北海道の学力向上関連の取組の検証及び改善に向けた取組」についてである。コンパクトにまとめられているので、校内研修等でお使いいただきたいとのことである。この中では、特に、2の授業改善・3の学習習慣、生活習慣・4の小学校と中学校が連携した取組・5の検証改善サイクルを重点的に見ていただきたいというお話であった。

また、道教委担当者との話合いの場では、道小からも意見を3点程述べさせていただいた。一つ目は、課題が明らかとなっている管内へのサポートを手厚くしていただきたいということである。人的配置や研修体制の整備をお願いした。二つ目としては、民間教育団体との連携や活性化についてである。学力向上に向けて授業改善を進める上では、民間の教育研究団体との連携が欠かせないということを述べさせていただいた。最近、地方によっては、教科等の団体の活力がやや低下しているのではないかと指摘があるためである。三つ目は、校長として、学力向上に向けた校内体制を整備した上で、学力低迷の要因を地域性としてしまうことがないようにして、たゆまぬ努力を続けていくということである。

3点目は、「働き方改革」についてである。道教委では、「学校における働き方改革『北海道アクション・プラン』」の構想を立てている。このことについても、過日、道教委教職員課の方から、説明を受けている。私からは、働き方改革が叫ばれる一方で、矢継ぎ早に教育改革の波が押し寄せてくるので、新しい施策と教員の働き方をセットで考えていただきたい旨、お願いした。こうしたことは、中教審の働き方改革中間まとめ案においても、「文科省が新たな業務を加えるような場合は、既にある業務と調整する必要がある」と述べられている。

最後の4点目は、服務規律についてである。道内各地や札幌市において、飲酒運転を始め、セクハラや猥褻、万引きなどの不祥事が明るみに出ている。冬休みを迎える直前に、今一度、校長会として襟を正し、教職員に対する服務規律の指導を徹底していかなければならないと考えている。

その他、道教委と札幌市教委の新学習指導要領における時間増に向けた対応についての資料も添付しているので、今後の参考にさせていただきたい。

3 議長選出 …………… 荻原崇弘 副会長

4 報告

(1)全連小第227回理事会の報告… 渡辺一弘 副会長

※詳細は「全連小速報」を参照

(2)教育情勢について…………… 本間 事務局長

国内の情勢から1点と道内の情勢から1点、その他の情勢について簡単にお話します。

国内の情勢からは、「教員の働き方改革」についてである。中央教育審議会初等中等教育部会の「学校における働き方改革特別部会」では、長時間勤務が問題化している教員の働き方改革について議論してきている。中教審の特別部会は、12日、中間まとめ案を大筋で了承した。中間まとめ案では、改革の目的を「教員の業務の範囲を明確にし、子どもと接する時間を確保して真に必要な指導ができる状況を作り出すこと」と強調している。業務を学校以外や外部人材に任せられるものなどに区分し、教員が授業に集中できる環境の整備を目指すとした。

また、国には、勤務時間の上限の数値目標を定めたガイドラインの作成を要請し、その実効性を持たせるための方策も必要だとした。現行より、授業時間が増える新学習指導要領の実施に向けて小学校の英語専科教員やサポートスタッフの充実など、学校の運営体制強化につながる取組も強く求めた。今後の動きに注視していきたい。

全連小顧問の、向山行雄帝京大学教職員大学院教授は、指導主事には「当たり前」の方策を凌駕する斬新な提言を期待するとし、働き方改革について17の提言を示している。

その他、12月9日に公表された小学3・4年生の外国語活動の新教材について、OECD調査による「協力し問題解決する力」が日本は2位であること、東京五輪のマスコットを小学生が決めるといった記事などがある。

続いて、道内の情勢からである。11月27日に道教委が公表した全国学力・学習状況調査の管内別平均正答率についてである。同日に出された教育長コメントの中で、「本道の状況は、全国の平均正答率との差が縮まるなど改善の傾向が見られますが、記述式問題で全国より無回答率が高いことや、授業の目標や振り返りが子どもたちに十分に意識されていないこと、望ましい生活習慣が十分身に付いていないなどの状況が見られることから、子どもが課題意識をもって粘り強く学習に取り組み、振り返りを通して学んだことを実感できる授業等の質的な改善や、家庭や地域と連携し、発達の段階に応じて自ら家庭学習に取り組む習慣を形

成する取組など、更なる授業改善と望ましい生活習慣の確立に向けた取組が必要であると考えています。」と述べている。このことを受け、道教委が現在策定中の新しい教育計画において、全ての子どもが「授業の目標を意識して学び、振り返る活動を行うこと」「記述式の問題で最後まで解答を書こうと努力すること」「学校の授業以外に一日1時間以上勉強すること」などを具体的な目標指標として示す方針を明らかにした。

この他に、小学校が授業時数増などに対応した適切な時間割を編成するためのポイントや事例をまとめた資料「小学校における時間割編成～授業時数への対応」の作成について、「道いじめ防止基本方針改定案」について、「教職員の欠員に関する対応」について、道教委の学校における働き方改革「北海道アクション・プラン」についてなど、多くの記事が載っている。ご覧いただければ幸いです。

(3) 会務・各部の活動について

①会務日誌 …………… 川島 事務局次長

9月8日と9日、第60回道小宗谷・稚内大会が、大きな成果を残し、成功裏に終えることができた。宗谷校長会は、中学校を含め実行委員56名という中で、地域の実情に合わせた素晴らしい大会を具現化した。10月4日の「道研究大会 運営研修会」において、宗谷・稚内大会の反省と全連小北海道大会(函館市)への引継ぎを行った。再来年度の道小胆振・苫小牧大会に向けた準備も兼ね、胆振校長会の役員にも参加していただいた。成果と課題等について、後ほどの協議の中で報告していただく。

次に「地区別教育研究会」についてである。9月から10月にかけて9会場で開催され、10月16日の札幌で今年度、最終となった。各地区において、事務局から道小の役割を再確認する場を設けさせていただいた。

10月12日、13日には、第69回全連小佐賀大会が開催され、北海道から119名の会員が参加した。

11月の1日と2日に、道特協千歳大会が開催され、こちらも成功裏に終了している。

全連小の各委員会の活動は、11月に今年度のまとめの作業が行われ、それぞれ東京での会議に担当の事務局員が出席している。

昨年までの「組織の在り方検討委員会」は、今年度は「企画研修委員会」として、本日の第1回目を含め3回ほど開催される予定になっている。

12月4日の第11回事務局研修会では、次年度に向けて、活動計画作成委員や「総会宣言文の作成委員」が会長より委嘱され、それぞれの活動がすでに始まっているところである。

本日は、理事研修会終了後、先程の第1回企画研修委員会、そして結成60周年記念式典・祝賀会が開催される。

②各部の活動について

【経営部】 …………… 大場 渉 経営部長

第3回理事研修会以降の活動の経過と今後の予定について簡単に報告する。

まず、本年度の「地区別教育研究会」についてである。8月1日の上川地区、小樽地区から始まり10月16日の札幌

地区を最後に、全ての地区が終了した。各地区からは、教育の今日的課題を中心に話し合いが行われ、「校長の職能向上」に向けたは研究会であったと報告を受けている。なお、地区の担当にお願いしていた「地区別教育研究会のまとめ」は道小HPに掲載しているので、ご覧願いたい。

2点目は、「法制研究集録第48号」についてである。道小が担当し、現在作成中である。来年2月には、発行できるよう作業を進めている。

3点目は、来年2月の第5回理事研修会に、本日午後に行われる経営部会で反省した「経営部本年度の活動計画」と「30年度の経営部の活動計画案」をお見せできる予定である。

【研修部】 …………… 福家 尚 研修部長 6点報告させていただきます。

1点目は、「第60回北海道小学校長会教育研究 宗谷・稚内大会」についてである。大会キャッチフレーズ「日本のてっぺん子育ての街から 子どもたちが輝く未来に向かって新たな挑戦を」の下、開催された宗谷・稚内大会は、全道各地より570名の参加を得て、二日間の大会を成功裏に終えることができた。第59回小樽大会までの研究の成果と課題を受けて、どの分科会においても、素晴らしい研究発表がなされ、それを基に熱心な研究協議が行われた。

道小では、参画型の分科会運営を実行しているが、本大会においても、アナライズカードや参会者の持参資料の効果的な活用、グループ討議の観点の焦点化の工夫などによって、参会者一人一人の課題意識や参加意欲の高まりが見られ、参画型の分科会は更に充実してきたように感じているところである。参加いただいた会員の皆様に心からお礼申し上げる。

また、大会を成功に導いてくださった植木典彦大会実行委員長、大島朗事務局長を中心とした大会実行委員会の皆様の大変きめ細やかな運営とおもてなしに、改めて感謝と敬意を表する次第である。去る10月4日に運営研修会を開催し、午前中に「大会反省会」、午後には平成30年度の開催地である函館地区への「引継ぎ会」を行った。この内容については、この後の協議において研修部副部長から報告させていただきます。

2点目は、平成30年度 第61回北海道小学校長会教育研究 函館大会についてである。この大会は、第70回全国連合小学校長会研究協議会 北海道大会と位置付けられている。大会に向けての進捗状況については、協議事項の中で、準備委員会よりご説明をいただくことになっている。研修部として、今後、函館大会実行委員会の皆様と連携を図りながら、大会の成功に向け業務を進めて参りたいので、どうぞよろしくお願いする。

3点目は、「第69回全連小研究協議会佐賀大会」についてである。本大会は、10月12・13日の両日、佐賀県佐賀市で開催された。道小は、各地区1割参加の体制で臨んだ。

北海道からの研究発表は、研究領域「II 教育課程」第4分科会「知性・創造性」において札幌市立簾舞小学校校長 附田裕哉先生。研究領域「IV 危機管理」第10分科会「危機対応」において、新ひだか町立東静内小学校

校長 下川徳久先生にしていた。

4点目は、「小学校教育 別冊54号」の発行についてである。大会の研究集録として発行している「小学校教育 別冊」であるが、宗谷・稚内大会実行委員会の研究部及び各分科会の記録担当の先生方には、大変ご苦勞をいただいた。予定通り今月に完成し、各地区へ送付した。ご活用のご程をお願いする。

5点目は、「教育改革等に関する調査」についてである。7月に、全連小より依頼のあった教育改革、教育課程、現職教育等の調査用紙を各地区の研修部長の先生に依頼、8月に回収し、全連小へ送付した。3月には調査結果が「研究紀要」の冊子となっております。ご活用をいただければと思う。

最後6点目は、「地区研究活動」についてである。掲載する原稿については、各地区の研修部長の先生から、全てご提出いただいた。今後、北海道小学校長会のHPに「地区研究活動」に掲載される。ご協力に感謝申し上げます。

【対策部】……………中村 等 対策部長

次年度に向けて計画していることについて2点お知らせする。

1点目は、30年度の「全道会長研修会」についてである。この研修会は、様々な教育課題が山積している中、各地区の課題を交流し、その解決に向けて話し合うことを目的としている。共通話題については、全道各地区のご意見を伺いながら設定していきたいと考えている。共通話題の集約については、本日配付した様式に従い、協議したい話題を4～5項目記入し、2月5日(月)までに武部副部長(札幌市立新琴似小学校)までメールで返答をお願いしたい。

なお、様式については、道小HPに掲載する。来年度の会長研修会は、6月に行う予定である。共通話題については、次年度の対策部が各地区の集計を基に原案を考え、事務局において最終決定をさせていただく。

2点目は、全道調査についてである。全道調査は今、様々に変化する教育情勢も見据えながら新たな調査も範疇に検討しているが、30年度は29年度同様に「広域人材に関する調査」と「退職校長動向等調査」の2つを継続して実施していこうと考えている。

「広域人事に関する調査」は、これまでに課題だった部分のその後の経緯等を追うこと、実際に広域人事を経た方々が、その後戻られてどう貢献しているかを更に検証する。

「退職校長動向等調査」は、再任用・再就職を含め、その動向等を更に経年変化として調査していきたいと考えている。

今後も全道会長研修会の共通話題の集約をはじめ、道小の調査などにおいて、ご協力をいただくことになるが、よろしくお願ひしたい。

【情報部】……………山田幸俊 情報部長

1点目は、会報「教育北海道」についてである。2月発行予定の321号は、締切が11月30日となっていたが、皆様のご協力で、原稿がほぼ揃った。12月27日に最後の原稿を入稿する予定である。

2点目は、「道小情報」についてである。紙ベースの「道

小情報 特別号 会長研修会の報告」を9月29日付で発行した。また、「文教施策・各課懇談会の報告～道小情報・道中だよりの号外」は、12月15日付で発行されている。

デジタル版の「道小情報第3号 第3回理事研修会の報告」を10月6日付でHPに掲載した。なお、第4号は、本日の第4回理事研修会の報告となる。これもデジタル版であるので、各地区の校長先生方への周知をよろしくお願ひする。

3点目は、道小HPについてである。現在、道小宗谷・稚内大会の報告を掲載している。また、経営部が担当の各地区の教育経営研究会の報告についてもトップページに掲載している。地区校長会活性化支援事業の「実践レポート報告」についても、海外研修を含めて21本全てトップページに掲載した。多くの会員の方にご覧いただきたい。

4点目は、全連小関係についてである。「小学校時報」については、11月号まで執筆が完了している。また、「教育研究シリーズ第56集」、「全国特色ある研究校便覧」も、既に執筆が完了している。

(4) 第60回道小宗谷・稚内大会について

……………大島 朗 指名理事

大会では、理事の皆様、事務局幹事・役員の皆様、特に研修部の皆様には大変お世話になった。期待数通りの570名の参加者で、大きな混乱なく、第60回という記念する大会を無事終了することができた。心より感謝申し上げます。実行委員会から大会報告をさせていただく。

10月4日に引継ぎをさせていただいた。

本大会は、宗谷校長会の小中校長56名の総力を結集し、宗谷・稚内らしい「人のあたたかさ・つながり」を大切にされた準備・運営を行った。大会アトラクションでは「南中ソーラン」の発表をさせていただき、参加者から「素晴らしい」「感動した」という感想が多数寄せられた。

分科会の運営については、徒歩で移動できることでゆとりをもって時間設定をすることができた。稚内ではめずらしい暑さも加わり、どの分科会も熱く協議が深まったのではないかと思います。

講演会は、参加者の皆様から高い評価をいただいた。その後も川島先生を講演に呼びたいのですが、という問い合わせもあり、北海道の子どもたちの課題解決に迫る講演会になったのではないかと考えている。

参加した皆様から、たくさんの感想をいただいた。膨大なページ数になるので、大会評価だけを掲載した。概ね肯定的な評価をいただいた。

今年の漢字は「北」であった。理由の多くがあまり良いイメージではなかったが、本大会については、日本のてっぺんである最北の稚内から子どもたちが輝く未来に向かって新たな発信が皆様と共にできたのではないかと考えている。来年度の全連小北海道大会(函館市)では研究の継続と充実が図られ、大きな成功を収めますことをご祈念申し上げ、報告とする。

(5) 第69回全連小佐賀大会について

……………松村 研修部幹事

※配付された資料をもとに、大会の様子が報告された。

(6) 第70回全連小北海道大会(函館市)の参加割当等について …… **新井 研修部副部長**

全連小北海道大会(函館市)は、全国から2,400名余りの参加者のもと実施される。

北海道からの参加期待数の合計は、574名となる。13分科会に、北海道20地区の全ての地区から参加していることが望ましいが、全ての地区が13名以上の参加期待数ではないこと、また、研究発表の地区の人数を厚くして各分科会の割り振りをしていることから、どの分科会にも参加者を割り振れなかった地区がある。

大会準備委員会では、この参加期待数に基づいて予算や会場確保等の準備をしている。各地区におかれては、期待数の確保にご協力をお願いする。

(7) 道教委・教育局への要望内容の集約について…… **川島 事務局次長**

「次年度も継続して要望していくのか」、「文言を見直す必要があるのか」、「要望内容・項目そのものを削除してもよいのか」などについて、道小と道中とで協議しながら整理し、来年度の5月に道教委へ提出する予定の「北海道文教施策・予算策定に関する要望書」を作成していく。

まずは、各地区の理事の皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

(8) 北海道へき地・複式教育連盟(へき複連)の活動や要望について …… **温泉 敏 指名理事**

今年度の本連盟の活動の様子と現状についてお話しさせていただきます。

まず毎年開催されている全道の研究会とそのプレ大会についてである。今年度は9月21・22日に、釧路大会を開催した。初日は釧路町公民館で全体会と分散会を、22日は7町村8会場で公開研究授業及び研究討議を行った。また、翌週の29日には、後志プレ大会が8町村8会場で行われた。

釧路大会は総勢550名の参加者があり、各会場とも多くの参加者が訪れる中、授業が行われ、充実した内容であった。また、今回は3校が集まった集合学習の授業公開も行われた。

後志プレ大会でも、各学校で積み上げられてきた実践が公開された。ただ、釧路大会との日程が近かったことから、参加者が少なかった。

次年度は後志大会が9月20・21日に、空知プレ大会が9月28日に行われる。

全国へき地教育研究連盟との関わりでは、本連盟が全国の加盟校の中で25%を占めている。

また、本連盟選出委員が研究部長や図書編纂委員長を務めており、次期の長期5か年研究推進計画の策定や全国の実践事例集を編集し、全国の研究団体を牽引する立場として活躍している。

続いて、へき地・複式教育の現状と課題、そして要望についてお話しさせていただきます。

道へき・複連では、平成25年度から毎年、組織検討委員会が中心となってアンケートをとっている。複式校の減少により、次のような課題が出ている。

1点目は、実践力向上の課題である。複式授業経験者が異動により少なくなったり、反対に未経験者が授業をしたりすることで、これまで培ってきた指導技術等が受け継がれなくなってきている。また、複式授業を互いに交流しようとしても、移動に時間を要してしまい、なかなかできないのが現状である。さらに、財政的不安と組織の衰退が懸念される。研究会の開催を見送る地区が出てきている。財政面については、へき地教育振興法をもとに道教委や市町村教委に働き掛けをしているところであるが、なかなか理解を得られていない面もある。については、各地区の校長会からもご支援をいただきたい。例えば、道小の組織と同様に各地区校長会に、へき複研指名理事をおいていただけたら幸いである。今後、これまで以上に道小と連携した取組を進めていきたいと考えている。

2点目は、複式指導及び指導体制についてである。例えば、社会科や理科については学年別指導を行うが、見学や実験等になると安全確保の上から担任以外の教員が必要となる。ほとんどの場合、この役割を教頭が担っている。また、児童数が15人以下の学校では事務職員が配置されず、教頭が担任と事務の業務を行っている。児童数が10人以下であれば、養護教諭が配置されず、その役割は女性教諭にお願いすることが多い。次年度からの外国語科、外国語活動の指導について大きな不安がある。

3点目は、生徒指導、不登校児童生徒、特別支援児童や通級児童への対応である。地域によっては日本語指導の課題もある。については、小規模校の定数改善の要望をこれまで同様、道小からも関係機関に依頼いただきたい。

今後の新たな課題としては、全国的に増えてきている「義務教育学校」についてである。ここ数年の様子を見ると、自校の学校運営や研究推進のために各地域の「へき地複式小規模校の研究団体」に加盟する傾向があり、全へき連でも加盟校調査の計算方法を変えていると聞いている。北海道ではまだ義務教育学校が少ないが、各地域に出来つつある義務教育学校の本連盟への加盟を、私たちが行うが、皆様からも是非呼び掛けていただきたい。

次年度は、道へき・複連が創立されて70年目を迎える。70年の節目として、また気持ちを新たに努力してまいらる。

結びになるが、皆様のご支援に感謝するとともに、これからも、へき地・複式校で連盟に加盟していない学校には加盟の働き掛けと、ご協力・ご支援をお願い申し上げ、報告とさせていただきます。

(9) 北海道特別支援学級設置学校長協会(道特協)の活動や要望について …… **高村 誠 指名理事**

本年度、本協会には道内の小・中学校の8割の1,400校が加盟、5ブロック25地区で研究を推進している。5月19日に定期総会研修会、9月1日に合同研修会を開催した。また、11月1・2日に千歳市において、全道から220名の参加をいただいて経営研究会石狩・千歳大会を開催した。次年度の経営研究大会は室蘭市で開催予定である。さらに、平成32年度には、函館市において全国大会が開催予定である。

道特協で実施したアンケート調査の結果、通常の学級における特別な配慮が必要な児童は、平均して1.6%在籍し

ていることが分かった。また、特別支援学級及び通級指導教室において指導を担当している教員の50%が特別支援の免許を保有していることが分かった。全国平均は、30%台である。

課題としては、新学習指導要領への対応である。また、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成が義務付けられている。各学校・地域において、適切な対応をお願いしたい。

(10) 平成29年度運営委員会〈中間監査報告〉について
…… 大石 会計理事
…… 杉本 功 監査委員長

※大石会計理事より9月末現在の一般会計及び特別会計の中間監査報告があった。その後、杉本監査委員長より、中間決算監査報告があり、収支について誤りなく、正確に処理されていることが確認された。

(11) 企画研修委員会について …… 本間 事務局長

本日の理事研修会終了後に第1回企画研修委員会を行う。委員会の回数は3回を予定している。

○「企画研修委員会」構成メンバー

- | | |
|---------------|---------------|
| ・比良 彰男 理事(石狩) | ・長谷川敏之 理事(留萌) |
| ・永倉 裕範 理事(檜山) | ・中村 等 理事(日高) |
| ・水野 豊昭 理事(十勝) | ・川嶋 英輝 理事(札幌) |
| ・本間 達志 事務局長 | ・松村 聡 事務局次長 |
| ・川島 政吉 事務局次長 | ・大石 幸志 会計理事 |

5 協 議

(1) 道小大会運営研修会〈反省会・引継会〉を受けて

①道小大会運営研修会〈反省会・引継会〉の報告

…… 新井 研修部副部長

○事務局幹事と大会実行委員会との連携について

分科会運営委員の役割について、第1回分科会運営研修会から明確にし、業務に見通しがもてるようにする。また、電子メール等での連絡を大切に、分科会運営役員の情報共有を密にする。

○各地区との連携について

道小HPの閲覧を呼びかけ、連携を深める。

○分科会の充実について

アナライズカードの活用、資料持参、キーワードやキーセンテンスの設定など、「参画型」の分科会が定着し、討議の見える化の工夫がなされた。

○全体会について

開会式後、分科会運営役員が分科会会場へ移動することなく、全連小会長の当面の諸問題を全員が聴くことができた。

○アンケートについて

研修に対する満足度を4段階評価にした。

○次年度の大会に向けて

来年度は全国大会なので、今年度の引継内容は、主に平成31年度の胆振大会につなげていく。「分科会の充実こそ、最大のおもてなし」という道小のスタンスを踏襲し、話し合いの内容が深まる運営を心がける。

②道小大会を振り返って(理事よりの感想意見)

…… 神谷 研修部幹事

※比良彰男 理事(石狩)、石山慎人 理事(小樽)、武智茂雄 理事(オホーツク)、横澤英三 理事(根室)の4名の理事より感想意見をいただいた。

□校長として将来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定の重要性を改めて感じた。

□宗谷校長会の皆様方のきめ細やかな配慮と温かいおもてなしを受け、有意義で充実した大会であった。

□熱心な協議や交流が図られ、「参画型」の分科会が定着していた。

□各学校の実践交流が図られ、自校の学校経営に生かされた。

(2) 第70回全連小北海道大会(函館市)の進捗状況について

…… 松村 事務局次長 他

※4名の道小事務局員から準備委員会の各部・各委員の進捗状況が報告された。

…… 秋山隆行 指名理事

函館の進捗状況について2点説明させていただく。

まず、大会時着用ジャンパーとして、函館ハーフマラソンで使用したものを無料で譲り受けた。大会袋は、ジャンパーの黄色と同色の物を作製している。

次に、参加者の移動についてご説明する。大会当日は、2,000名以上の人動きがある。分科会移動の際、いかに混乱なく、素早く確実に移動させることができるかが大きな課題である。現在の計画は次のようになっている。

分科会会場は、アリーナを除くと湯川地区、五稜郭地区、駅前地区の大きく3箇所に分かれている。湯川地区へは徒歩で、五稜郭地区へは路面電車で、駅前方面へはバスでの移動となる。狭い道を多くの人移動するので、混乱のないよう進めて行きたい。

以上、進捗状況についての簡単に説明した。函館では、大会を成功させようと準備を進めているが、人数が限られているので、様々な場面での皆様のご協力をお願いしたい。

(3) 平成30年度活動計画・総会宣言文の作成について

…… 本間 事務局長

〈提案どおり進めることを確認〉

(4) 平成30年度役員選考について

…… 松村 事務局次長

〈提案どおり進めることを確認〉

6 議長退任

7 連 絡

……川島 事務局次長

- (1) 第5回正副会長研修会・理事研修会について
- (2) 平成30年度会務予定について(道小・全連小)
- (3) 退職会員の感謝状及び記念品について
- (4) その他

8 閉会の言葉

……野寺克美 副会長